



INGING NEWS PAPER 2016 VOL.07

TAKEFREE

不運に苛まれるも
Wタイトル
獲得圏内を維持!!



Race Report 決勝 2016年9月25日 スポーツランドSUGO
Round.6 SPORTSLAND SUGO 9/25 Final

Round.7 SUZUKA CIRCUIT 10/29-10/30

Support by **cyber net**
株式会社 サイバーネット

激闘の予感!!

2台共にタイトル争いに残る最終戦!

Race Report 決勝 2016年9月25日 スポーランド菅生
Round.6 SPORTSLAND SUGO 9/25 Final
天候:晴れ / コース状況:ドライ / Time (1:23:21.000) / Best (1:08.384)

2016年の全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦は、真実が広がる日曜日の午後、スポーツランドSUGOで決勝レースが行われた。予選で力を発揮できず挽回を誓っていたP.M.U./CERUMO-INGINGだが、マシントラブルやセーフティカーのタイミングにリズムを乱され、石浦宏明が16位、国本雄資が15位という結果に終わった。前日の予選では予想外の展開となったP.M.U./CERUMO-INGING。仕切り直して迎えた決勝日は、午前9時30分からのフリー走行で始まった。レースに向けたピット作業のシミュレーションやロングランのチェックなど、一通りのメニューをこなしながら前日を重ねた2台。夜半の前でコース上にはほとんどころ濡れている状態を懸念していたが、徐々に路面状況は回復し、それにつれてタイムも前落ちはなかった。最終的に国本がセッション前半の5周目に1分09秒90をマークし、石浦は後半の12周目に記録した1分09秒27が自己ベストとなり11番手となった。白旗はほとんど無く、午中には気温が27℃、路面温度は34℃まで上昇。初夏のような風気の中で、68周の決勝レースがスタートした。フォーミュラのレースでは抜き差しが少なくと言われるSUGOでは、スタートは勝敗を決する重要なアクター。ここに思いを定めていた二人だが、10番手スタートの石浦はクラッシュトラブルが発生し出遅れ、国本も、動き出しこそ良かったものの、1コーナーまでの集団状態で行き場をなくしボジションダウン。石浦が14番手、国本が18番手でオープニングラップを終えた。レース序盤は集団の中でなかなかペースを上げられず、10周を終了したあたりから燃料補給のピットインに向かうマシンが出はじめ、11周目に石浦の前にいた2台がピットイン。これを目の前がクリアになった石浦はペースアップし、1分09秒半から前半と上位陣に引けを取らないタイムを叩いていく。ここでペースを上げてからピット作業に向かう予定だったが、18周目にP.テ.オリバレイのマシンがコースサイドでストップしてしまったことにより、セーフティカーが入ること。幾りのレース展開を考えても、ピットインのタイミングはセーフティカーにキープされる前しかないので、チームはこの時点で5番手を走行していた石浦、8番手を走行していた国本の2人を同時にピット呼び戻し、連続でのピット作業を決定した。ところが、同じタイミングで隣のピットのチームもピット作業を選択。石浦はピットの作業エリアにマシンを止めるために大きくスライディングを切らなければならず、そこでクラッシュからわずかに指が割れてしまい、後ろで待機していた国本も合わせてストップ時間を拡大してしまい、2台は16番手、17番手でコース復帰することになってしまふ。石浦はさらに、コース復帰後マシントラブルに見舞われ一時スローダウン。ここで国本が順位が入れ替わり、国本16番手、石浦は17番手からレース後半を戦っていくことになった。思わぬアクシデントで順位を下けた2台だが、前のマシンとのギャップも開き自分のペースで走行ができる状況になったことでペースは向上し、それぞれ1分09秒台にとどまっていた自己ベストタイムも、国本が3周目に1分09秒304、石浦が4周目に1分09秒08と、それぞれ1秒秒単位まで差を縮め、国本は64周目にセクター2で全体のベストタイムを記録してみせた。しかし車中のバムにはまだ持ち残りが多く、2度目のピット作業に向かった1台が順位を下げたことにより国本15位、石浦16位でフィニッシュ。目標としていたポイント獲得はできなかったが、結果としてシリーズランキングでは国本が2位、石浦は5位でタイトル獲得の権利を有している。「最終戦で2台揃ってタイトル争いに残る」というシリーズ当初の目標は達成しており、残る鈴鹿大会でドライバーズチャンピオン、そして現在ランキングトップであるチームチャンピオンのダブルタイトル獲得を目指す。

H.Ishiura 01 石浦 宏明

クラッシュ系のトラブルでスタートは出遅れてしまいました。セーフティカーが入ったことでこのタイミングで入るしかないというタイミングに合ったタイミングでも、他のチームとのピットの位置関係とピットに入ったタイミングでエンジンストールを招いてしまいましたし、その後も別のマシントラブルが起きたりと、なかなかうまくいかないレースになってしまいました。ホリディに比べれば、今日のラバルが車庫裏までトリアップを走っているように思いますが、走ることもできませんが、それでも無理矢理に自分のペースで走らなければならぬという状況です。最終戦でそうだったドライバーたちとしっかりと戦えるよう、ここから準備を怠るべきではないですね。鈴鹿は開幕戦でも走っていますが、あの時と同じ状態で走って行っても勝負にはならないので、今回までの結果を見ながら、しっかりと最終戦に向けて考えていきたいと思っています。



Y.Kunimoto 02 国本 雄資

スタートはうまく決まったのですが、行き場をなくして順位を下げてしまいました。その後は前後に他のクルマがいる状態でしたし、なかなか自分のペースで走ることができず、徐々に周回遅れになっていきました。クルマの状態も、求めるような速さではなく、厳しいレースになりました。それでもシリーズランキングはまだ2番手にいます。最終戦の鈴鹿ではポルトゥガルをやるつもりで準備はしています。チャンピオンを奪うためにこの1年頑張ってきました。だから悔いの残らないシーズンにするために、最終戦でこの1か月ちょっとという長いインターバルでしっかりと準備をしたいと思います。



SPORTSLAND SUGO



立川 祐路 Team Manager

ピットインの状況ですが、石浦がエンジンストールしてしまっ場所後は給油ホースが届かない位置だったこともあり、大きなミスとなってしまいました。それが全てですが、こういう苦しい時に何とかしてもポイントを獲得したかった。それができなかったのは非常に残念です。今の間に選手とドライバーチームはセーフティカーが入ったことで遅れてきたマシンが追いつくという逆転を逃がしてしまっています。あのうな選手を、僕たちのチームでも出さなければ。最終戦の鈴鹿は、これは全く違うサーキットですが、今日と同じような展開にはならないと思いますし、他のチームに負けないよう最終戦も頑張ります。

浜島 裕英 General Manager

セーフティカーのタイミングでもう少し低い順位につけられる可能性はありましたが、石浦がエンジンストールしてしまい、それに日本も影響を受けてしまいました。それとクルマの燃料システムのメンテナンスも遅かったですね。関口選手の速さには全く届いていませんでした。十分に分析して次につなげなければいけません。鈴鹿はすでにチームがもう準備は済ませました。もう一度優勝を目指します。とにかくチーム一丸で最終戦に向けて頑張っていきたいと思っています。

[Racing Junky] 好評発売中!

数量限定

石浦選手 T-SHIRT

6,200円

販売先: INGINGモータースポーツショップ